

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年11月14日

【評価実施概要】

事業所番号	572207827
法人名	有限会社 湯の里
事業所名	グループホーム 湯の里
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字木戸沢199-70 (電話) 0185-83-5008
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成20年11月5日

【情報提供票より】(20年10月20日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 12月 15日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算 14.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建てφ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000円~20,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	17名	男性	5名	女性	12名
要介護1	0名	要介護2	8名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 91.94歳	最低	75歳	最高	103歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森岳温泉病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは温泉街にほど近い閑静な住宅地に位置し、周囲は自然にも恵まれている。ホームにはよく手入れされた広い中庭があり、利用者が日常的に散歩やお茶などを楽しんでいるほか、地域住民も気軽に訪れている。ホームには温泉も引かれ、中庭を眺めながら入浴できるなど、立地環境を最大限に活用したホーム造りを行っている。また、ホームが企画する焼肉会や系列のホームが合同で実施するカラオケ大会、運動会には地域住民も多数参加するなど、地域との交流にも積極的である。職員は利用者の立場に立って接することを心がけており、穏やかで明るい態度で利用者として過ごしている様子が確認できた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価実施後、ホーム内で要改善事項について話し合い、サービスの改善につなげている。利用者のプライバシー配慮、介護計画等の整備について、具体的な改善が図られている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者及び計画作成担当者が作成したものを職員が確認した上で取りまとめられている。今後は、作成の段階から全職員が何らかの形で関わられるような取り組みが期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今年度は運営推進会議を2回実施し、社協の担当者や利用者の家族、地域住民などが参加している。会議ではホームの状況を報告しているほか、家族もホームへの要望等を話すよい機会となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情受付の窓口、担当者を重要事項説明書に明記している。今年から、ホームからの働きかけで「家族会」を立ち上げている。今後は、行事の機会等を利用しながら、家族等がホームに対する意見、要望等を表明できる場として「家族会」を更に機能させていくことが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホームには手入れの行き届いた広い中庭があり、それを利用したお茶会や焼き肉会等の行事にはボランティア、民生委員、地域住民等が参加している。また、中庭に散歩に来た地域の方がホームを見学したり、子供たちがホーム内に掲げた鯉のぼりを見に来るなど、日常的に地域住民と交流する機会がある。

2 . 評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	企業理念を玄関に掲示している。その他に、各ユニットの職員が話し合って決めた独自のキャッチフレーズ(『明るく、楽しく、暖かく』『手を取り合ってふれあう心』)を玄関や事務所に掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者、管理者、職員は運営理念やキャッチフレーズを意識しながら業務に当たっており、それは入居者への言葉かけやホームの雰囲気づくりなどに反映されている。また、会議等の場においても、運営者・管理者・職員は職制にかかわらず活発に意見交換を行っている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームには手入れの行き届いた広い中庭があり、それを利用したお茶会や焼き肉会等の行事にはボランティア、民生委員、地域住民等が参加している。また、中庭に散歩に来た地域の方がホームを見学したり、子供たちがホーム内に掲げた鯉のぼりを見に来るなど、日常的に地域住民と交流する機会が得られている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者及び計画作成担当者が作成したものを職員が確認した上で取りまとめられている。また、昨年の外部評価実施後には要改善事項について話し合い、サービスの改善につなげている。		入居者のプライバシーへの配慮、介護計画等の整備について具体的な改善が図られている。自己評価については、作成の段階から全職員が何らかの形で関わられるような取り組みが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年は運営推進会議を2回実施し、社協の担当者や入居者の家族、地域住民などが参加している。会議ではホームの状況を報告しているほか、家族もホームへの要望等を話すよい機会となっている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者とは、関係書類を届ける際にホームの状況等について意見交換するなど、ホームから積極的に関わっていく姿勢が伺える。</p>		
<p>4.理念を实践するための体制</p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が面会に来た際にはその都度利用者の生活状況について報告している。また、家族へ毎月請求書を発送する際に職員が書いた手紙や写真を同封し、近況を伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付の窓口、担当者を重要事項説明書に明記している。ホームの玄関には意見箱も設置している。</p>		<p>今年から、ホームからの働きかけで「家族会」を立ち上げている。今後は、行事の機会等を利用しながら、家族等がホームに対する意見、要望等を表明できる場として「家族会」を更に機能させていくことが期待される。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>系列のグループホーム間で異動があるが、殆ど一人ずつの異動であり、入居者への影響は最小限に抑えられている。また、普段からホーム間で行事等の交流を行っているため、異動した職員も新しい職場環境に慣れやすい状況にある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修は年3回計画し、実施している。また、外部の研修についてはグループホーム協会等から情報を得て、おおむね2か月に1回、職員が持ち回りで参加している。研修報告は申し送り時等に行い、綴りを回覧して周知を図っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>秋田県及び能代山本グループホーム協会に加入している。口腔ケア・理髪・応急手当等の研修や意見交換会に参加し、交流を通してホームの質の向上に努めている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居の希望や相談があった場合はホームを見学してもらっている。ホームの雰囲気や職員の様子等を見てもらい、入居した場合に徐々に生活に馴染んでいけるよう配慮している。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は「利用者と目線を合わせてゆっくり話をする」、「利用者の隣に座って、同じ立場で話をするよう心がける」など、利用者と共に生活することを意識した関わり方ができている。利用者の経験したこと等を傾聴して職員が学ぶことも多い。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、本人の思いや意向を普段のコミュニケーションの中から聞き取るようにしている。家族の意向については、面会時に聞き出すよう努めている。把握した事柄は、職員会議等で周知を図っている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者及び家族の意見、要望は入居時に聞き取り、記録に残している。そのほか、「アセスメント票」や「課題分析シート」を用いて本人、家族のニーズを反映した具体的な介護計画書を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月から6ヶ月の期間で見直しを行っている。その際、サービス担当者会議において評価を行った上で次の介護計画につなげている。そのほか、本人・家族・関係者と話し合いながら、必要に応じて随時見直しを行っている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算の指定を受けている。地域の訪問看護ステーションから看護師が月2回訪問しているほか、24時間体制で医療的な相談を受け付けるなど、ホームの多機能性を強化している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>個々の利用者が、入居前のかかりつけ医で受診できるよう、遠方の場合は車で送迎するなどの支援を行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームの「看取りの指針」を作成している。利用者が入退院を繰り返したり、ADLが低下したりした場合は、家族と話し合いながら今後の支援の方針を決めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員はさり気ない声かけや介助に努めており、利用者の誇りやプライバシーに配慮していることが伺えた。また、入居の際は基本情報の使用について家族等に説明し、同意書を作成している。利用者個別の記録等は事務所に保管されている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事や移動などの場面では、職員が利用者のペースに合わせ、本人の話を聞きながらゆっくり介助していることが確認できた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問当日は、各ユニットの利用者の多くが職員と一緒に昼食メニューの「だまこ」を作っていた。食事の利用者と職員が同じテーブルで摂り、できる方は無理のない範囲で職員とテーブル拭き等を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に1日おきに実施しているが、希望により毎日入浴している利用者もいる。健康状態は入浴前にチェックしている。		温泉が引かれ、また窓からも庭園を眺めることができるなど、利用者が入浴を楽しめる環境が整っている。今後も、利用者の介護度の重度化に応じた介助等の対応が期待される。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえや、ホーム内の装飾づくり等には入居者も参加し、得意にしていることを生活の中に活かせるよう取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にホームの広い中庭を散歩したり、お茶を飲んだりすることができる。また、希望に応じてドライブや買い物にも出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は各ユニットとも鍵をかけていない。一人で外出しようとする利用者には、職員が付き添って一緒にでかけ、声かけ等しながらホームに戻るよう支援している場面が見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている</p>	<p>消防署の協力を得て1年に1回、防災訓練を実施している。年ごとに、日中・夜間の想定を変える等の工夫をしている。また、ホームの向かいに住む住民には、災害時等に協力を得られるよう働きかけ、了承を得ている。</p>		<p>地域住民にも訓練に参加してもらったり、できれば年間で複数の想定による防災訓練を実施することも検討し、利用者がより安心して生活できるような体制づくりが期待される。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分の摂取量は毎回チェック表を用いて把握している。また、利用者の状況に応じて、個別にとりみをつけたり、おかゆやゼリー等を用意している。</p>		<p>栄養バランスについては、ホームで本を購入し、職員がカロリー をチェックしている。今後は、例えば関係機関の栄養士にメニューをチェックしてもらうなど、より専門的な視点から支援を行うことも期待される。</p>
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各ユニットとも、不快な臭い等は全く感じられない。トイレや廊下は車いすが通れるスペースを確保しているほか、ホームの各所には手すりが適切な高さに設置されている。ホームの壁には和紙や落ち葉等を利用した季節感のある装飾が掲げられている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の居室には、ホームへの入居前に本人が使い慣れたものを自由に持ち込むことができる。家具や写真等、利用者が居心地よく過ごせるような居室環境となっていることが確認できた。</p>		

は、重点項目。